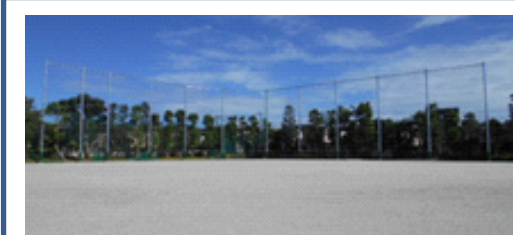


練馬区立中村中学校（2年目）

【校長】 大石 光宏
 【生徒数】 568名
 【学級数】 18学級
 （通常級15学級、特別支援学級3学級）



次の取組へ

【課題・改善】

- ・「一人1台端末」を利用した動作分析への意欲は50%程度に留まった。
⇒授業でICTを活用することで、理解が深まり、技能の向上に役立ったと回答した生徒が90%以上であった。
- ・ICTを活用することにより、授業内での運動場面が減るため、休み時間や昼休み、放課後、自宅などで確認を促し、改善につなげた。
- ・スポーツ選手やスポーツに関わる仕事をしている人からコーチングを受けてみたい生徒が90%であった。

【実態・課題】

- ・「運動やスポーツのコツやポイントを知りたいか。」という設問に、約9割の生徒が肯定的な回答をしている。
- ・「保健体育の授業で一人1台端末を活用したいか。」という設問に、約6割の生徒が否定的な回答をしている。
- ・「運動をする際、外部人材から教わりたいか。」という設問に、約8割の生徒が肯定的な回答をしている。

目標

- ・中中体操プラス（いつでもどこでもできるウォーミングアップ）の定着（肯定的な回答80%以上）
- ・一人1台端末の活用した深い学び（ICT機器活動充実度の肯定的回答80%以上）
- ・ゲストティーチャーや教科横断的な視点を踏まえた取組

【成果】

- ・中中体操プラスを校外（部活や課外活動）でも行ったことがある、と回答した生徒が45%にUPした。また、運動やスポーツの意欲UPにつながる、と回答した生徒が77%に上がった。（令和4年度比17%UP）
- ・ICTの活用により、視覚的に自分の動きやゲームを分析することで、生徒同士や教師のアドバイスを共有でき、主体的に動画を確認し、課題改善をする生徒が増えた。
- ・外部人材により今後も外部講師を招いた授業を受けたい、と回答した生徒が98%にUPした。

【取組】

- 中中体操プラスに向けた取組
 - ・既習の体操をリニューアルし、運動会種として全校で実施した。
- 体育での一人1台端末活用の取組
 - ・SPLYZA やスプレッドシートの運用による動作分析や、ゲームの振り返り、健康課題修正の取組を進めた。
- オリンピックやパラリンピアンを招き、講演会や体験活動、エクササイズを実施
 - ・オリンピックやパラリンピアン、区のゲストティーチャーを招き、講演会や体験授業を実施した。

【取組（詳細）】

○新たな中中体操プラスに向けた取組

- ・模範演技の動画を見たり、ペアやグループ内で改善すべきところを確認しあう。
- ・学年間をまたいで、お互いに発表しアドバイスをしあう。
- ・既習の体操に音楽を付けた動画をクラスルームを通して全校で共有し、体育の授業時に練習し、運動会で発表した。
- ・部活動や小中連携、家族など課外活動で行う場面が増え、様々な人と、自ら運動に親しむ場面が見られた。



中中体操プラスを運動会時に全校で発表

○保健体育科におけるタブレットの活用



SPLYZA の動画アプリを使い課題を指摘し合う様子

- ・ゲームを録画し、チームで気づいたことや課題などを、付箋機能で入力し、分析したり話し合ったりして、次回の練習やゲームに生かす。
- ・模範演技の動画を見たり、つまづきの場면을教師のアドバイスを受けながら追究していく。
- ・スプレッドシートによる、一つ一つの動作をチェックし、スモールステップ方式で完成に近づけていく。

○アスリートによる授業（7人制ラグビー&ウィルチェアーラグビー）

- ・オリンピック（7人制ラグビー）やパラリンピアン（ウィルチェアーラグビー）による、講演会や実演会、体験授業により、スポーツや運動の興味を高めることができた。
- ・スポーツの特性や楽しさを身近で味わうことにより、スポーツが日常に溶け込み、「だれでも、どこでも、いつまでも」といった生涯スポーツにつながった。
- ・年齢、性別、障害を問わずスポーツを楽しむことを通じて、多様な関わりを体感することができた。



ウィルチェアーラグビー 池崎大輔選手